

令和2年度 第1回こうち男女共同参画会議議事要旨

日時：令和2年8月27日（木）午前10時～12時

場所：高知共済会館 3階 桜

出席：野嶋委員、中川委員、山下委員、濱田委員、眞鍋委員、中谷委員、沖田委員
太田委員、籠谷委員、吉本委員、和田委員、半田委員、濱田委員、植田委員

欠席：稲田委員

議題：次第参照

(1) 会長・副会長の選任について

事務局

資料1により説明。会長・副会長は委員の互選であるが、立候補・推薦等が無いため、事務局案として、会長に野嶋委員、副会長に中川委員を提案。

委員

出席委員全員が了承。

事務局

会長は野嶋委員、副会長は中川委員に決定。

(2) 男女共同参画苦情調整委員について

事務局

資料2により説明。苦情調整委員については、こうち男女共同参画会議委員の中からの互選であるが、立候補・推薦等が無いため、事務局案として、稲田委員、中川委員、植田委員を提案。

委員

出席委員全員が了承。

事務局

苦情調整委員は稲田委員、中川委員、植田委員に決定。

(3)「こうち男女共同参画プラン（H28～R2）の進捗状況について」

事務局

資料3により説明。

会長

全体としては12項目が進捗目標が達成できている。そして24項目の進捗が見られる。進捗が見られないものが7項目あり、少しずつ着実に目標の達成に向けて進んではいるけれど、まだ色々課題がある現状と思う。私たちとしては、次の年に向かって進んでいっていただきたいと思う。

(4)「令和元年度 男女共同参画社会に関する県民意識調査の結果について」

事務局

資料4により説明。

会長

この結果は、実際に県民の意識がどうなったというところを、ぜひ皆様方と周辺の方にも、共有していただきたい。

八つの分野における男女の地位の平等意識において、男女とも平等にあるという部分を増やしていくことが県民としても、願っているところであると思う。政治の場とか社会通念・慣習・しきたり、社会全体的なところとしては平等意識がまだまだ低いという状況。学校生活、家庭生活、職場生活などは平等の割合が大きい。私たちとしては、できるだけ平等の割合が多くなればと思う。

委員

全体的に見て5年間の成果がはっきり評価できる結果が出ていないと感じる。高知市も同様の調査をしているが、県や市がこういうプランを作って活動していることを市民や県民がどれだけ知っているのかと思う。高知市の調査結果から見ても、知っている割合が少なく、(県も市も)非常に広報ができてないと思われる。こういう条例や計画はホームページに載せているが、市民や県民が見て理解できているかどうかということに少し疑問がある。そこがきちんと伝わらないと県民、市民がこの活動にどういうふうに取り組み、県はこう取り組んでいるから私たちもこう取り組まなければならないということの認知度がなかなか上がらないのではないかと思う。全体の結果は高知市の調査とほぼ同じようなデータが出ており、県と市がわざわざ別々に調査する必要はあるのかなと思う。

また、言葉のところで横文字(カミングアウトとかアウティング)を70代、80代の人に質問して分かるのかなと思う。何で日本語表記にしないのかなど。用語の意味をきちんと説明して表記する場合には、日本語と横文字の両方を表記すればよいと思う。特にアウティングは、前回の委員会の時に言葉の意味をきちんと調査票で説明してくださいという意見が出されたと思う。(用語を)知っても

らうためには言葉の意味をきちんと理解していただかないといけない気がする。アウトィングは単なる人の秘密の暴露と書いたほうがいいと思うが、その辺りは表現の仕方にもう一度工夫が必要。

後は、この結果を次回のプランにどのように反映するのか。何が一番大きな課題で、なぜこれを解決できなかったのかきちんと分析した上で、次のプランに反映できないと、全然このアンケートの意味がない。

「こんな無駄なことに金を使うな」というような意見が高知市の調査にも同じようにあったが、アンケートの結果がどのように活動に反映されているかが見えないから、批判的な意見も出てしまう。データだけ見てそれでよろしいですかではなく、きちんと分析してアンケート調査の結果に納得するようなプランを立てないと、あまり意味がなくなってしまうと感じた。

事務局

普及度については、広報が十分でないことが結果に表れているかもしれない。プランの改定の時期には広報をしているが、それでは十分ではなかったかもしれない。中途の年度であっても大事なことであるので、男女共同参画会議の広報など機会を捉えて皆様にお知らせする機会をもっと作るよう考えたい。

用語についてこの調査票には注として、カミングアウトとは、アウトィングとは、というふうに説明を書いているが、調査結果として出ていくときにも言葉の説明が十分できるように、例えばカミングアウトは端的に、「性的少数者であることを告白すること」というふうに書き分けて皆様に広報するよう考える。

また、意識調査をしたということにとどまらず、どのように活かすかということをご皆さんにも知っていただくということに関しては、調査結果を踏まえて、次期プランの検討を行ったので、その中でどのように分析したか併せて説明させていただく。

会長

広報は非常に重要と思う。特に5年間のプランにおいて、一年目は比較的広報するが、それを通常化、単にホームページでの広報をするという面では、ぜひ広報プランを教えていただければと思う。

委員

広報について、非常に細かく具体的に調査をされるのはいいと思うが、一般の方にぜひ見ていただきたいということを考えると、薄い冊子（概要版）でもまだ厚いと正直思う。人が目にして、分かりやすい形で広報してほしい。先日、高知新聞に意識調査の記事が載っていたが、マスコミやテレビで調査をしたことを広く県民の方に知らせ、結果は、例えばシリーズ化して載せるといった広報の仕方など、県民に見やすい形にしていかないと、次期男女共同参画プランの方になかなか意識が向かない可能性があると思うので、ぜひ検討していただきたい。

会長

メッセージ性のあるようなものを作ってシールにしたり、あるいは研修会等でそれらを活用したりするなどの広報を考えていただければという意見であった。本当に大事な調査で、5年に1回の貴重なデータであるので、次の広報に関しては、メッセージ性のある県民の気持ちに近いような形での広報活動をしていただければと思う。

委員

5番のアンケートの中で、括弧書きのところ、男女共同参画社会実現のために力を入れるべきところで、文章の中に今まで以上に男女共同参画社会を実現するために力を入れていくべきことという、強調して書かれてるところが今後、(男女共同参画社会を) 実現するために考慮しなければならない内容ではあると思うが、どこに力を入れていくべきか知見がずれてきてないかなと感じた。(性的少数者については) 大事なところであるが、少子化の時代、高齢化の時代で、令和世代の子どもがすごく少ない中、まだまだできていないことをすごく感じている。そこに力を入れてできないのに、新しい言葉に引っ張られてしまい皆がそっちに向かってしまう。もっと子育て世代に注視しないといけないのに、新しい言葉から重点的に次回の計画に入れてしまうと、子育て世代がまた横ばいになる。少数者より大人数をサポートするような体制を採っていただきたい。その辺はどういう考えで力を入れていくべきことに位置づけたのか知りたい。

事務局

「男女共同参画の推進について」という項目では、周知度を知る目的と、今まで以上に男女共同参画社会にしていくためにはどんなところに力を入れる必要があるかを問う、二つの質問をしている。この周知度を聞く設問の中に、性的少数者に関するこの四つの項目についてご存じですかということをお聞きをした。言葉の周知度としてこの性的少数者に関することをお聞きしたものである。これと別に、「男女共同参画社会を実現するためにはどういったことが必要だと思いますか」ということをお聞きしており、(特段) 性的少数者について力を入れていくというような意図のものではない。ただ、この性的少数者関連の新しい言葉は、むしろ性的指向・性自認というところで説明しなければいけないかもしれないが、その人権が尊重されるということは、男女共同参画社会の実現にも実は関係の深いことであり、次期プランの中には国もこのことを位置付けているため、県としても同様に位置付けを考えており、位置付けの仕方について意見をいただきたいと思っている。

会長

用語については、この委員会の中でも検討した結果として、今回この形になったところであるが、確かに調整が十分でなかったと思う。

そして、分析した結果をどうプランに活かすかということは、次の議題のところの話になる。今の段階では家庭生活とか職場生活のことに関しては非常に分析をされて考えている。非常に重要な問

題になるが、社会通念、政治の場に関してはもう少し説明をしていただければと思う。

委員

自由記述での意見で、良いという評価もあれば、何でやるんだろうというのもあれば、進捗しているという状況、社会が良くなっているというのを書かれている人もいれば、とてもDVで苦しんだという悲痛な声もあった。男女共同参画社会が何を展望しているのかというのを、もう少し広報、周知される時に成果も含めて伝えられると良いと思った。固定的な役割分担の通念の中で、男性はこういう生き方、女性はこういう生き方というものが古くからあったが、だんだん自由度が高まってきている。まだもっと高い自由な選択が男性も女性もできるようになるといいと思う。社会が皆が生き生きしますよというようなイメージをもっと伝えたらいいと思った。女性が虐げられている部分だけを強調すると、男性も大変なんだという声もあったり、DVでも男性がつらい思いをしていたりすることもある。これまでは女性が被害者というケースも多かったが、そこだけではなく、男性の生きづらさを感じている部分も改善をしていく先に高知県を生き生きとしたい社会を作るといふ、そんなイメージを伝えられたらいいかなと思う。

また、先ほどのカミングアウト、アウティングについて、私も同じような感じを受けた。これは高知県内というよりは、日本の社会全体が英語の表記のほうを優先して日本語の意味は「自分で勉強して知りなさい」みたいになってるところがあまり良くないのかなと思う。カミングアウトというよりも告白というのを先に持ってくるとか、暴露というのを先に持ってきて、その後にアウティングと付けるなど、少しずつ変えていけばいいと思った。

あとは、今まで色々な成果の中でDVのシェルターができたり、育児についてもファミリー・サポート、病後児保育というのが進んできている。そういう社会に変化してきているため、どうぞ皆さんも色々な選択肢の中で生きていこうというメッセージになる。家庭生活のところで男性は仕事が忙しいから家庭のことはあまりできないと言うが、私自身も介護を経験する中で、忙しいというのは必ずしも理由にならない。今後の取組の中で働き方改革をする一方で、必ずしも時間と家庭内での役割分担、育児・介護・家事というのは、仕事だけが理由ではないということも、調査の中で盛り込めたらなと思った。あとは自由記述の中で問3の答えのほうが違和感がある。そういう部分は次年度に向けてアンケートのバージョンアップというのも図っていただければと思う。

会長

この調査からさらに、例えばあるべき姿とか、頑張っているようなモデルケースみたいなのも使うことで、説明の仕方にも使っていけると思う。ただ、本当に色々な形で県民に向けて、あるいは男女共同参画社会の実現に向けてはまだまだ取り組まないといけない課題がたくさんあるということも事実である。それに関してもしっかりと周知をすることによって一つのリードができるのかなということを感じた。広報に関してさらにお願ひしたい。

(5) 「次期こうち男女共同参画プラン（R3～R7）の改定について」

事務局

資料5により説明。

会長

こうち男女共同参画プランを改定をしていく骨になるもの。そして、これをこの委員会ですべてモニタリングをしていくというものの基盤になるものである。今回、色々なところで新しくなっている。全体像として2ページが一番分かりやすくなっている。意識調査はもちろん、これまでの進捗状況の確認、そして国・県のその他の政策との関係の中で考えられているものである。

2ページでは、新たに目指すべき姿勢を出している。「性別にかかわらず、誰もが自分らしくいきいきと活躍できる高知県」これから先の5年間、これがかなり前に出てくる。これを委員会としてこの表現でいいかどうかということをご意見いただければと思う。テーマそのものは変わってないが、その下に目指す姿ということで、三つ新たに目指す姿が書かれている。

そして取組の柱の新しいところとして、社会全体、育児・介護、あるいは生活上の困難、多様性、人生100年時代などが新しい視点として書かれている。

そして3ページに今までの現状、そして皆様方の意見、意識調査等々を踏まえて、これから先5年間の取組の方法、そしてその取組の方向性などの結果として目標値、さらにモニタリング指標などが整理されている。

委員

子育て世代に重点を置くと、ここ数年でも特に子育て世代や女性も含め、全体的に高知県の働く環境というのが大きく変わってきているように感じている。やはり今、定年が延びたり、高齢化が進んでいく中で、再雇用として高齢の方が働き始め、その影響が子育て世代にも大きく出てきている。子育て世代からの話を聞くと、今まではおじいちゃんおばあちゃんに預けて働いていたという環境が、おじいちゃんおばあちゃんが働いているから預けられないとか、おじいちゃんおばあちゃん世代もこれからの生活のプランを考えると働かなければならない。(そうすると)子育てなどで、何かあったときに預けられないということになる。

子育て世代にもしっかりと重点した目標を立ててはいただいているが、細かなところを見ると、ファミリー・サポート・センターも市町村数目標値が令和7年までの計画では、今まで13市町村。34市町村がある中で、まだまだ周知できていないと感じる。市町村単位でいうと非常に少ない。特に郡部に行けば行くほどこの少子高齢化になり、子育て世代をサポートできる体制がないのではないかと思う。

また、病児保育、病後児保育も含め、今ここで計画している以上に、今後非常に必要になってくると思う。現場の声とか、アンケート中にも出てきたように男性・女性の格差はまだ残っている。PTAの活動の中でも、やっぱり女性の委員が多い。いまだ男性が忙しくて色々できない。女性が活躍する

場が少ないということも考えると、女性が働くことができるようにということを考えてサポートにもう少し力を入れていただきたいと感じた。

委員

意識調査について、例えば家庭で家事・育児に女性が専念することの理想と現実があると思う。本当に理想に思っている人が現実の中に何割いるのかがよく分からない。本当に理想と思っている人の全てが理想ではないほうに動いているかもしれないし、理想が本当に現実の中の二十何%の、全ての中に含まれてるかもしれないし、合致性が分からないことにはプランの立て方が少し難しいのかなと思う。

委員

資料 5-2 の 3 ページの右下の働く場での意識啓発と地域での意識啓発のところで、地域での意識啓発の女性のチャレンジ・エンパワーメント支援、女性リーダーの育成とあり、その上の 3 番の企業リーダー育成とまた全然違うものになるのか、また含まれているのか知りたい。

広報について、男女共同参画プランを知ってもらうということで分かりやすい言葉を使うことはすごく大事だと思う。このテーマで「誰もが自分らしくいきいきと活躍できる高知県」というのはすごく素晴らしいと思うが、この「自分らしく」はすごく抽象的で、自分らしさは人それぞれ違う。自分らしくというのはただただ生きていくのも自分らしさであり、色々なものが含まれるので、もっと具体的な、例えば自己実現とか自己成長のように、その辺をどう意識されているのか考えてもらいたい。

また、プランを立てて実際に取り組む中で、実効性という面で家庭生活は、個人的な要素がすごく多いので、なかなか難しい領域になると思う。ムーブメント、社会の流れをすごく重要にしてもらいたいし、地域の NPO で活動されている方と協働していくということも視野に入れると良いと思う。

あと、職場もなかなか進んでいない状況で、行政として税制優遇や地域のクーポン、今話題のクーポンを上手に使いながら、しっかりとサポートしていく体制があれば数値の向上に繋がると思う。

最後に、学校に関してもしっかりとした NPO 体制を整えていけば一体となってすごく進むのではないかなと思う。

委員

資料 5 ページ、取組の柱の一覧にある「環境を整える」の中の育児・介護等の基盤整備のところについて、全般的というか、本当にこれだけでいいのかなというのをすごく感じる。介護や育児について、どうして今止まっているかを考えたときに、働いている人の中で、育児・介護を支えている方が多く、例えば、家に早く帰れるようにするなど、根本的に働いている人が家で育児・介護ができるように項目を入れていただかないと、地域における介護の支援というのは、このプランでなくても、他の高知県の健康福祉分野という形でもできる内容ではないかと思う。ここのところはもう少し強く

したほうがいいのではないかと思います。

あと、教育分野のところで唯一平等と感じてる割合が減少したというのは、この前の歯科医科大学、女性、女子に対する入学で点数を低くしていたことがすごく影響しているのではないかと思います。この教育分野も今回下がっているということを踏まえ、例えば、資料3ページのところの公立学校における男女混合名簿は5年間で進んでないが、やろうと思えばすぐにできることだと思うので、目標値として掲げていただきたい。

また、3ページの働く場の意識の啓発に関して、前回からワーク・ライフ・バランス推進企業認証制度ということで、多くの企業を順番に入れて数字的には200と増えているが、内容的にこれは果たして本当にワーク・ライフ・バランスに該当するのかといった内容がある。これは雇用のほうの関係の分野で、直接、男女共同参画の方が指導してどこまで変わるかというところはあると思うが、これを目標値として掲げるのであれば、内容についてもう一度、再検討する必要があると思う。やはりワーク・ライフ・バランスというのであれば、家庭に帰る時間、働き方として自分たちが地域の会、ボランティアに参加できる時間を取れる等、中身についても考えていただけたらと思う。

あと、プランを策定するに当たって、基本的に国の次期プランを参考にされると思うが、国のプランについて、9月7日まで内閣府のホームページでプランの概要、あるいは素案について意見を言えるようになっていることを、この場で言っただけだったら良かった。国のプランを、次のプランに反映させるということがはっきりと出ており、国のプランについても知っておく必要があるのではないかと思います。

委員

この骨子は進めていくという見解でよろしいか。その場合、今コロナ禍において男女の家庭生活という項目があるが、家事や育児の男女の時間の割り振りは、今後この状況において違ってくると思う。今後、状況が変わったときに医療従事者（医師や看護師）の家庭、男女の時間の割り振りは変わると思う。ずっと、この通りに進めていくのか、そのときの状況に応じて、変えていくのかを聞きたい。そうすれば時代に合った男女の在り方ということが理解できると思う。

会長

プランは5年ごとなので抜本的に見直していくと理解している。ただ、その5年間の中で必要があればプランの変更もあり、見直しもあると理解してよろしいか。

事務局

はい。

委員

資料の5-3の目標値のところ、その手前の資料までは何となく流れが分かる。この目標値はこれか

らまた追加されたり修正されると思うが、例えば5-3の上、3 枠目「(1) 社会全体の意識を変える」では、男女共同参画計画策定市町村の割合が、平成26年度に19市町村R元年度は20市町村。1市町村増えたと思うが、R7年度の目標値を約34市町村100%に設定しており、今までの経緯から考えると、なかなか難しいと思う。なぜ平成26年度から、令和元年度まで進まなかったのかという原因から、もし令和7年度の目標値を34市町村にするのであれば、どういう方法を取り目標を達成するのかというところまで考えないと、目標は立てたけれども進まないということを繰り返す可能性があるのではないかと思ってしまう。その下にもいくつか進んでないが、目標がいきなり上がる場所があるので、そこをご検討いただければと思う。

会長

目標値が個別に、方向や主な取組があり、その上に目標値が書かれているが、必ずしも取り組むことが全て目標値に繋がるわけではないと思う。大きなものがあり、取組と取組の主な方向性があり、その中で可能な限り目標を数値化していくという考え方ではないのかなと思う。そして、もう少し目標値の在り方に関しては、進まなかった原因等々を踏まえて検討して書いていただけたらと思う。

委員

まず、目標値の設定の在り方について、今までの取組の中で目標値をほとんど達成できてない。プランも立てているのに、目標値を半分も達してないという状況の中でこれをどう評価しているかをきちんとしておかないと駄目だと思う。考え方として5年後の目標値を立てていて、目標値を達成できてないのに、それでよしとするかどうかについては、すごく重要な問題だと思う。この数値は何なのかということきちんとして検証しないと、令和7年度の目標値を達成するときに、これも令和7年度の目標ではなくて、何十年も先にこういう姿であったらいいというのが目標値になってしまい、届かなかったでは全然意味がない。きちんと達成できる目標値を立てていないと、県民の皆さんがこの進捗状況を見たときに、県は何もしてないのではないかと、プランを立てておきながら目標値は何も達成していないという意見が出てくると思う。令和7年度の目標はこうだけど、さらに（その）5年後には100%にしますよという感覚でもいいと思うが、そこをきちんとしていただきたいとずっと感じている。取組の内容について、これは非常に残念な結果ということをきちんと受け止めてもらいたいというのはある。

あと、今回良いと思ったのは、意識調査の結果を受けて、「家庭生活」、「職場生活」、「政治の場」という取組を強化するというをはっきり挙げて、これの目標値を挙げている点である。これはぜひプランを出すときに全面的に県民に知らせるべきであり、5年後に45%が達成できていなかったらどうなるのかをきちんと出していく必要がある。見た目非常に分かりやすい数値であるので、これは全面的に出すべきと考える。取組を強化すると資料に大きく書かれているので、ぜひきちんとあげていただきたい。

また、各事業で取り組む目標値については、評価がきちんとできるようにしていただいたのと、平

成 13 年度からこれまで取り組んできた結果の全体的な評価をもう一度、評価し直さないといけないのではないかと感じている。もう一度過去を振り返って、過去の数値も検証したうえで、目標値を立てていただきたい。目標は理想であって現実とは違いますよという話では説明がつかないと思うので、どうやってこの目標値を達成するのかというところまで詳しく説明できるような目標値を設定していただきたいと思う。

会長

皆様の意見を反映させて 11 月に新たな案が出るかと思う。11 月までの間に気づいたことがあればお知らせいただきたい。

(6) 「高知県 DV 被害者支援計画の進捗状況について」

事務局

資料 6 により説明。